**台湾工作機械情報**

**2024年7月15日**

* **洋上風力のイノベーション　工作機械にビジネスチャンスを**

　台湾工作機械とパーツ工業同業協会（以下TMBA）と金属工業研究開発センター（以下金属センター）が4月25日、台中の臻愛花園ホテルで「洋上風力発電スマートマシン設備イノベーションセミナー」を開催した。このイベントには66人の参加者と37のメーカーが集まり、洋上風力発電の製造プロセスのスマート化と革新的な技術について話し合われた。

　近年の世界経済の不安定さ、特にインフレ、金利上昇、サプライチェーンの混乱といった課題に伴い、多くのデベロッパーや風力タービンメーカーが経営危機に遭遇している。そのため、グリーンエネルギーに対する世界的な需要が拡大し続けるなか、スマート製造技術によって風力発電用部品の生産効率をいかに向上させ、製造コストをいかに最小限に抑えるかが、世界の業者にとっての優先課題となっている。

　会談の中で、TMBA秘書の陳忠平は次のように強調した。「工作機械産業は洋上風力発電製造業の発展において重要なパートナーだ。両産業の緊密な協力が台湾をアジアにおける洋上風力発電技術の中核地域へと発展させる。業界間の相互交流と協力を通じて、各業界の専門能力を高めるだけでなく、業界全体の革新と進歩を促進し、国際舞台における競争力を高めることができる。」

　セミナーの冒頭では、金属センターの業界アナリストである林子欽氏が、洋上風力タービン部品業界のスマート化製造と設備の応用事例を詳しく紹介した。三鋒機器の林松益会長も風力発電の加工における巨大CNC旋盤の経験と実績について語った。永記造漆の劉彥甫エンジニアは洋上風力タービン用コーティングのコーティングシステム認証とスマート製造の経験を共有。最後に，金屬センターの李沅融氏が洋上風力発電の海底インフラ製造におけるスマート機器のアプリケーションとトレンドについて詳しく紹介した。さらに会議の中で西門子歌美颯の陳子健副社長は、「台中のキャビン組立工場が稼動し、現地のサプライチェーンが発展することで、設備調達の需要が増加し、国内の設備ベンダーや工作機械業界にとって潜在的なビジネスチャンスが生まれるだろう」と説明した。

　今回の「洋上風力発電スマートマシン設備イノベーションセミナー」を通じて、産官学および研究機関の専門家は、世界的なインフレ率の上昇など、現在の経済環境の課題に対処するため、知能化技術と先進的な製造設備によっていかに産業効率を高められるかを検討した。今後、グリーンエネルギーと持続可能な開発に対する世界的な需要が高まる中、TMBAと金属センターは引き続き産業のスマート化向上と国際協力を推進していくことで、台湾がアジア太平洋地域の洋上風力発電業界において重要なキープレーヤーとなれるようでありたい。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.159 頁69）

* **両軸変革フォーラム：工作機械業界のエコシステム創造**

　TMTS2024では、「ダブル・トランスフォーメーション・インテリジェンス、持続可能な未来」を展覧会の核心とし、市場動向、デジタルトランスフォーメーション、グリーントランスフォーメーション、人材資源の持続性、産学連携などのトピックに焦点を当てた多角的な企画フォーラムをテーマとした。航空宇宙、新エネルギー、電気自動車など、工作機械業界における主要なアプリケーション市場の専門家が招待され意見交換がなされた。台湾工作機械パーツ工業会（以下TMBA）と科技新聞Orangeは共催で「2024 AI知能化フォーラム-工作機械産業」特別セッションを開催した。グローバルなデジタル製造の観点から国内外の専門家を多数招き、工作機械産業がAI応用の動向とIT / OT情報セキュリティ問題を適用するための詳細な分析を行った。

　TMTS2024は、国内初となる「umati」ゾーンを設け、名誉会長として東台精機の嚴瑞会長を代表として招き、ドイツ工作機械工業会のアレクサンダー・ブルース代表をはじめ、国内の工作機械・部品メーカー、学校、企業26社が参加した。技術支援を提供してくれた精密機械研究開発センターと工研院スマート機械センターに感謝の意を表す。

　デジタルトランスフォーメーションフォーラムの最初のセッション「グローバルな視点からのスマートマニュファクチャリング変革の新たなトレンド」では、アレクサンダー・ブルース博士が、台湾がドイツに次いで世界第2位のumatiのパートナーになったことに触れ、通信プロトコルumatiが工作機械と周辺機器の異業種スマートエコシステムをどのように結びつけているかについて詳しく説明した。PTCのグローバルセールス副総裁ケビン・ウィリアムズは、持続可能な製品ライフサイクル管理からスタートし、環境負荷を低減する設計から、生産工程の可視化、工程統合、そして最後にエネルギー効率や原材料のジャストインタイム・サプライチェーン管理に関して説明した。

　第2セッション「AI応用爆発元年におけるスマート製造業の変革とイノベーションエンジンの推進」では、台湾マイクロソフトと麗台科技を招き、工作機械業界におけるAI技術応用のための二軸変革ソリューションを提案した。台湾マイクロソフトの顏逸安氏は、Copilot AIのアプリケーションを紹介し、麗台科技の劉家豪氏は、イノベーション生産、遠隔コラボレーション、視覚化プロセスのためのジェネレーティブAIを用いたスマート工場の実現に向けたNVIDIAとの協業について説明した。デジタル化のプロセスは情報セキュリティとリンクしていなければならない。Fortinetのテクニカル・コンサルタントである溫德鈞氏を招き、企業がAI技術を利用してセキュリティの脅威をより正確に特定し、防止策について解説してもらった。

　第2回グリーン変革フォーラムでは中国鋼鉄の鄭際昭副社長の説明のなかで、中国鋼鉄が5G通信技術を採用し、人間と機械の遠隔コラボレーションを実現したこと、グリーンプロセス、グリーン製品、グリーンパートナー、グリーンビジネス、グリーンライフを含む5G（グリーン）戦略を採用し、炭素ゼロへの炭素削減を具体的に実施していることを説明した。台達電子機電本部副社長の吳仲祥氏は、「環境保護、省エネ、地球愛」が同社の使命であり、事業経営と製品設計において省エネと二酸化炭素削減を実践していると説明した。 また、スマート工場、エネルギー管理システム、電気自動車充電ステーションのエネルギー管理など、スマート工場向けの低炭素エネルギーソリューションを提案。ドイツ経済事務局のシニア・マネージャーである甘婉妤氏は、同国におけるグリーン変革推進の参考に、政府、企業、民間セクターの低炭素化におけるドイツの経験を紹介した。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.160 頁52-53）

* **2023年天下雜誌ランキング工作機械企業トップ2000**

　台湾トップ2000社のランキングが天下雑誌５月号で発表された。工作機械と部品企業のランキングと関連情報は以下表1の通り。

表1 2023年度ランキング台灣2000工作機械企業 (天下版)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 排名 | 企業名 | 売上高(億台湾ドル) | 成長率(%) | 利益(億台湾ドル) | 利益率(%) |
| 1 | 亞德客國際集團 | 298.27 | 14.40 | 69.66 | 23.35 |
| 2 | 上銀科技 | 246.33 | -15.97 | 20.35 | 8.26 |
| 3 | 東台精機　(注) | 76.21 | -7.84 | 0.50 | 0.66 |
| 4 | 金豐機器工業 | 67.19 | -3.43 | 4.10 | 6.10 |
| 5 | 台中精機廠 | 65.83 | -13.15 | N.A. | - |
| 6 | 程泰機械　(注) | 53.19 | -16.70 | 7.13 | 13.40 |
| 7 | 永進機械工業 | 45.43 | -14.78 | N.A. | - |
| 8 | 協易機械工業 | 34.98 | -1.44 | 2.13 | 6.09 |
| 9 | 崴立機電 | 33.03 | -11.40 | N.A. | - |
| 10 | 大同大隈 | 31.84 | -29.24 | 1.41 | 4.43 |
| 11 | 百德機械 | 27.71 | 7.24 | 1.11 | 4.01 |
| 12 | 台灣瀧澤科技 | 26.64 | -26.06 | 1.30 | 4.88 |
| 13 | 全球傳動科技 | 25.71 | -23.80 | -1.04 | -4.05 |
| 14 | 台灣麗馳科技 | 25.60 | -18.86 | 0.96 | 3.75 |
| 15 | 亞崴機電 | 23.62 | -23.83 | 2.11 | 8.93 |
| 16 | 大銀微系統 | 21.70 | -32.78 | 0.05 | 0.23 |
| 17 | 高鋒工業 | 20.16 | -1.66 | 1.04 | 5.16 |
| 18 | 協鴻工業 | 17.66 | -32.85 | 1.26 | 7.13 |
| 19 | 台灣氣立 | 13.77 | -23.71 | -0.35 | -2.54 |
| 20 | 榮田精機 | 13.47 | 33.76 | 1.41 | 10.47 |
| 21 | 福裕事業 | 12.91 | -19.86 | 1.16 | 8.99 |
| 22 | 直得科技 | 10.75 | -34.29 | 0.98 | 9.12 |

注：『天下雑誌』798号より作成、第３位の東台精機は榮田精機を含む（20位）、第６位の程泰機械は亞崴機電を含む（15位）、グループの収益掲載であって、個々の企業規模を反映しているわけではない。

表2 2023年度台湾工作機械ランキング (検証版)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ランキング | 企業名 | 売上高(億台湾ドル) |
| 1 | 亞德客國際集團 | 298.27 |
| 2 | 上銀科技 | 246.33 |
| 3 | 金豐機器工業 | 67.19 |
| 4 | 台中精機廠 | 65.83 |
| 5 | 東台精機 | 62.74 |
| 6 | 永進機械工業 | 45.43 |
| 7 | 協易機械工業 | 34.98 |
| 8 | 崴立機電 | 33.03 |
| 9 | 大同大隈 | 31.84 |
| 10 | 程泰機械 | 29.57 |
| 11 | 百德機械 | 27.71 |
| 12 | 台灣瀧澤科技 | 26.64 |
| 13 | 全球傳動科技 | 25.71 |
| 14 | 台灣麗馳科技 | 25.60 |
| 15 | 亞崴機電 | 23.62 |
| 16 | 大銀微系統 | 21.70 |
| 17 | 高鋒工業 | 20.16 |
| 18 | 協鴻工業 | 17.66 |
| 19 | 台灣氣立 | 13.77 |
| 20 | 榮田精機 | 13.47 |
| 21 | 福裕事業 | 12.91 |
| 22 | 直得科技 | 10.75 |

注：天下雑誌798号より。東台精機と程泰機械から、榮田精機と亞崴機電を差し引き、別個の企業ランキングを検証した。

2023年台湾の工作機械企業を概観すると、大まかに以下4つの特徴が挙げられる。

1. 企業の9割以上は不況にあえぎ、全体の利益率も低く、厳しい業界である。
2. 金属切削工作機械TOP５：台中精機、東台精機、永進機械、崴立機電、大同大隈；成形工作機械TOP２：金豐機器、協易機械、ちょうど売上30億台湾ドルを超える工作機械メーカー上位7社のうちの1社。
3. 協鴻工業のような、かつて価格で勝っていた急成長輸出志向の企業はまだ弱い立場にあり、達佛羅はもはやランクインしていない。
4. パーツ6社のうち、亞德客は2桁成長を維持、上銀を上回りダントツの一位。他5つのパーツ会社は大幅な減少を示し、過去、中国の工作機械会社の需要の恩恵を受けていた利点はもはや存在しない。

(資料出典：天下雑誌773号、劉仁傑研究室)

* **2024年台湾工具機械産業の現状と展望**

　地政学的対立と主要中央銀行による高金利環境の下、世界経済は底堅く推移した。米国経済は引き続き好調で、欧州経済も緩やかな回復が見込まれ、その他の地域も低迷していない。しかし、最近の地政学的リスクの激化と、特定産業をめぐる米欧中貿易摩擦の高まりが、世界のインフレと経済・貿易発展の不確実性を高めている。

　2024年1-4月の台湾工作機械輸出総額は約7.02億米ドルで、前年比14.6％減少。 金属切削工作機械の輸出額は17.3％減の5.81億米ドルであったが、金属成形工作機械の輸出額は1.2％増の1.21億米ドルであった。

2024年1-4月、金属切削工作機械の主な輸出の種類は順に、マシニングセンタの輸出額が約2.09億米ドル、前年同期比28.5％減少、旋盤は2位で輸出額は約1.7億米ドル、前年同期比14.8％減少した。 金属成形工作機械では、鍛圧、プレス成型機の輸出額は9,959万米ドルで、前年同期に比べ6.2％増加。

　輸出国（地域）別の分析によると、2024年1月から4月までの台湾工作機械の輸出国（地域）トップ10は、中国（香港を含む）、米国、トルコ、インド、ベトナム、ドイツ、オランダ、韓国、日本、タイの順。そのうち、台湾の中国大陸（香港を含む）向け工作機械輸出額は2億500万米ドルで、前年同期比5.3％増加し、輸出総額の29.1％を占めた。米国市場の輸出額は1億400万米ドルで、前年同期比19.1％減少し、輸出総額の14.9％を占め、第2位となった。トルコは輸出額6,739万米ドルで3位、前年同期比18.2％減、輸出全体の9.6％を占める。

　2024年1月から4月までの台湾工作機械輸入総額は1億4,700万米ドルで、前年同期比32.5％減少した。そのうち、金属切削工作機械の輸入は34.9％減の約1億1600万米ドル、金属成形工作機械の輸入は21.3％減の約3087万米ドルであった。

機種別に分析すると、金属切削工作機械は、放電・レーザー・超音波工作機械の輸入額が5,072万米ドルで第1位、輸入総額の34.4％を占め、前年同期比50.5％減、主な輸入国は中国（香港を含む）、米国、日本だった。旋盤の輸入額が2,279万米ドルで第2位、15.5％シェア、前年同期比7.9％増。

輸入国（地域）別の分析によると、2024年1月から4月までの台湾工作機械輸入国（地域）トップ10は、日本、中国（香港を含む）、ドイツ、米国、スイス、スウェーデン、タイ、イタリア、韓国、イスラエルの順となった。 台湾の日本からの工作機械輸入額は6,268万米ドルで全体の44.6％を占め、前年同期比48.1％減、中国（香港を含む）は2,981万米ドルで全体の20.2％を占め、前年同期比25.5％増、ドイツは1,710万米ドルで前年同期比5.3％増の第3位。

表一、歷年台湾工作機輸出額(単位:百万米ドル)

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.160 頁19-20、25-26）

* **最近のニュース**

**機械、工作機械に指導！経済部半導体業界と協力　装置・部品サプライヤーを変革**

【2024-04-02 経済日報】

　5月に就任する頼清徳総統が本日、機械・工作機械産業に関するセミナーに出席した。経済部産業発展署長の連錦漳氏はブリーフィングのなかで次のように報告した。「経済部は現在、機械産業にAIアプリケーションとスマート付加価値技術の導入を指導しているほか、機械産業、半導体産業と協力して、機械メーカーの半導体製造装置・部品サプライヤーへの転身を支援していく。」

　「貿易部は機械工具輸出融資制度を推進し、業界の輸出金利負担を軽減し、海外マーケティングとレイアウトを強化し、新南方、欧州、米国、日本、新興市場との結びつきを強化するための融資支援を提供している。」

「経済部（MOEA）は機械産業に対し、主に3つの分野で指導を行っている。 第一は、機械の国産コントローラーと周辺設備の利用促進、インテリジェント機能の開発、インテリジェント省エネ生産ラインの構築である。」

「機械産業と半導体産業の協力を促進、機械産業が半導体装置・部品サプライヤーに転換するのを支援し、サプライチェーンにおける半導体の弾力性と自律性を強化する。」

最後に「当協会と連携し、工作機械メーカーや部品メーカーが製品のカーボンフットプリントインベントリーを実施する際のガイドラインとなる製品分類ルールを策定し、顧客のニーズに合わせてカーボンインベントリーを迅速に開始する。」と語った。

**機械設備受注は徐々に回復　今月業界の３割が増加傾向の見込み**

【2024-04-12 経済日報】

　台湾機械協会が昨日、3月の機械設備の輸出額を発表した。前月比31.5％増、前年同期比1.5％減、これは対米ドルの新台湾ドルの為替レートの下落に起因する。前年同期比1.7％増、全体的に見て械・設備受注の緩やかな増加傾向に変わりはない。

　台湾工業協会理事長の莊大立氏は「台湾の機械産業の輸出は、17ヶ月連続不況の後、今年1月に輸出がプラス成長に転じたが、2月は旧正月で労働日数が減少したため、機械輸出額は前年同期比12.9％減少し、3月は毎月の増加傾向に戻った。」と語った。

　第１シーズン台湾の機械輸出額は前年同期比1.8％減少したが、台湾ドルベースでは同1.0％増加した。また、今年1～2月の輸出機械受注は前年同期比3.3％減となったが、これは主に世界経済の回復が依然緩慢で、業界が設備投資に慎重だったためだ。しかし、3月の機械輸出受注を今月と比較すると、業界は33.9％増、横ばいの45.0％を見込んでいる。一般的な環境は変わらず、機械設備受注は緩やかな回復を示すと予想される。

機械工業協会統計によると、第１シーズン機械輸出額の上位3品目は、検査・測定機器が16.8％（前年同期比3.4％増）、電子機器が15.4％（同3.4％増）だった；工作機械は7.9%シェア， 10.0%減。第１シーズン機械輸出国トップ3は、米国（24.5％）、中国（22.9％）、日本（7.8％）。

**ウクライナ生産関係者代表団が台湾を初訪問、台湾産業の戦後復興への参画に期待**

【2024-04-16  中央社】

　経済部国際貿易局の委託を受け、貿協はウクライナ政府の調達プラットフォームPROZOROO、ウクライナの医療復興プロジェクトUNBROKEN、4つの主要産業、合計7つの企業を台湾訪問団として招待した。ウクライナ政府調達プラットフォームPROZOROOのCEOであるMykola Tkachenko氏は、「これまでウクライナは台湾やその技術、有利な製品についてあまり知らなかったが、今回は台湾と接触する機会を得ただけでなく、電力・エネルギー、電子・電気機械、インテリジェント医療機器、産業機械、ウクライナの復興に必要な工作機械などの分野で台湾とさらなる協力関係を築きたい」と述べた。

　貿協は本日発表されたプレスリリースの中で、ウクライナ復興協力に関するセミナーを開催し、200人近い業界関係者が参加したことに触れている。ウクライナのビジネスマンは、台湾のフォトリレー、フォトカプラ、電子医療機器、発電機とエネルギー貯蔵、電線とケーブル、CNCやその他の工具と機械、防災や電子検出製品に非常に興味を持っている。

**賴清德「台湾ITと人材を保護　民主主義の国際的サプライチェーンで安定を」**

【2024-04-17 連合報】

民進党中央委員会が本日、中華経済研究院経済法制研究センターの顏慧欣センター長を招き、「経済安全保障思想の台湾政策への示唆」と題する特別報告を行った。民進党主席賴清德は報告を受けて次のように語った。「競争力の強化は台湾経済の安全を守るための出発点、民進党政権は各産業の競争力を強化する。早くから発展の重要な方向と見なされてきた「6大戦略産業」を引き続き推進し、「5大信頼産業」やその他のプロジェクトを発展させることで、台湾の産業の強みをより強くし、産業全体の回復力を向上させる。

　賴清德氏は次のようにも語る。「最近、イノベーション精神に基づき、半導体、ロボット、AIイノベーション、ICT産業、デジタル・イノベーション、機械・工作機など、業界と直接かつ深く交流するための「信頼できる業界訪問ツアー」が数多く実施されてきた。将来的には、様々な主要産業における台湾の技術や人材を保護し、国際的な影響を受ける可能性のある台湾の産業に対して、指導や援助を提供し続ける。」

**機械産業白書、10年の青写真描く**

【2024-04-21 連合新聞網】

　近年、国内外の政治・経済情勢が急速に変化する中、機械工業会は今年初めに工業技術研究院と共同で「台湾機械産業白書」新版を発表した。台湾機械工業協会の統計によると、台湾の機械工業は現在14,000社以上、270,000人が従事しており、生産額が1兆元を超える第3の産業となっている。2023年機械工業の総生産額は約1兆2100億元で、2022年より約0.24兆元少ないが、2024年1月にはすでに輸出の伸びがマイナスからプラスに転じる春が見られる。

　白書はまた、工業技術研究院に2035年台湾の機械産業の発展状況と目標を記した論文を執筆するよう要請した：生産額は2倍の3兆元以上になり、付加価値率は35％以上、一人当たりの生産額は600万元に達する。 産業発展のボトルネックと課題に焦点を当て、魏燦文氏は6つの主要な政策提言をまとめた：

 1.メイン技術の差別化と製品研究開発革新の深化を支援。

 2.高性能な産学研究連携ネットワークを構築し、リソースを統合するための異業種プラットフォームを構築。

3.業界のための人材採用と育成を支援すること、これは業界が最も提案した項目でもある。

4. 国内機械設備案助成金の導入。市場メカニズムだけでなく、国家安全保障戦略を考慮し、独立したサプライチェーンを強化。

5.業界の国際マーケティング強化を支援。

6.業務・金融支援策を強化し、機械業界の株式公開（上場）による資金調達を奨励。

**機械設備Q3：保守的な見方**

【2024-05-10経済日報】

　台湾機械協会が昨日、４月の機械設備輸出額が11.8％減少、新台湾ドルで7.0％減少したと発表した。世界の産業情勢はまだ大幅に回復していないといえる。業界は第３シーズンの景気は期待できると楽観的であったが、態度は保守的になっている。

　機械協会の統計によれば、台湾4月の機械産業輸出は7.8％減少、11.8％の年間減少。 そのうち、4月の工作機械輸出は172万ドルで11.3％下落、26.1％の年間減少。

　今年1～4月の機械輸出額トップ3は順に、検査・測定機器が16.6％で年率1.9％増、電子機器が16.0％で年率0.2％増、工作機械が7.8％で年率14.6％減だった。

　注目すべきは、台湾の工作機械輸出が4月に急減したことだ。世界経済の影響に加え、円安が急激に進んだため、台湾の工作機械輸出のハイエンドモデルの受注が急減し、日本の設備に太刀打ちできなくなった。

機械協会が2023年以降の為替動向を分析したところ、2024年4月末までに新台湾ドルはわずか6.03％下落しただけだが、韓国ウォンは9.16％、人民元は5.06％、日本円は20.76％も下落していた。

　2021年初頭と比較すると、日本円は53.61％も下落しているのに対し、台湾ドルは14.55％しか下落しておらず、そもそも台湾の工作機械が外注受注で日本メーカーに対抗するのは難しい。

**中日が受注競争...工作機械業界は危機 工作機械協会「生存余地なし」**

【2024-05-10 経済日報】

　台湾機械工業会の莊大立会長は、「円安が続き、台湾工作機械のハイエンドモデルの受注は日本企業にかっさらわれ、中国のローエンドモデルと低価格ダンピングの板挟みで、台湾工作機械メーカーの生存余地は本当に小さくなっている」と述べた。

　彼はまた、「かつては台湾の工作機械と日本の工作機械との間に20％から30％程度の価格差があり、そのおかげで台湾の工作機械は国際市場で競争力を保っていた」と指摘する。 しかし、円安が続く現在、双方の価格はほぼ同じに。「それでも台湾の工作機械と日本の工作機械のどちらかを選ぶとしたら、誰が台湾の工作機械を買うだろうか？」

　実際、昨年は台湾の工作機械業界にとってかなり厳しい年だったが、台湾はまだ輸出国のトップ5だった。ところが米国と韓国に一気に抜かれ、第７位輸出国になってしまった。中国も日本を抜き、工作機械の世界第2位の輸出国で、ドイツに次いで2位となった。さらに嘆かわしいのは、昨年の工作機械輸出上位10カ国のうち、輸出が減少したのは2カ国だけで、1カ国は8％減の日本、台湾は14％も減少したことだ。

**産業の均衡ある発展を！伝統産業のスマート化を提案、まずは工作機械**

【2024-05-22 経済日報】

　国家科学委員会の新会長である吳誠文氏は、「国家科学委員会の今後の使命は、台湾のIT経済発展の成功を産業全体に拡大し、『均等の取れた急速な』成長を実現することだ」と述べた。同氏は、経済省、文部省、その他の省庁間と協力し、3ヶ月以内に産業のスマート化とデジタル化のための行動計画を提出する予定でいる。 また、まずは工作機械に的を絞ってスマート製造業に変えるという目標も挙げた。

彼は、「工作機械は台湾の優良産業だが、伝統的な機械分野ではCNCの使用が非常に限られている。私たちは、機械をスマート・デバイスに変え、スマート製造の一部になることを望んでいる。そのためには、AI、半導体、情報通信、クラウドサービス、さらにはIC設計の統合が必要となる」とも述べた。

　また、「台湾では、多くの中小型IC設計があり熟練の技術を使用しているが、過去には採算性を考慮したために、海外の大規模な注文を受信しようとした。我々はIC設計者が将来、台湾のスマート製造のためのチップを設計できることを望んでいる；半導体製造装置や半導体スマート・マニュファクチャリングでさえ、アライアンスを必要としている。」

**金属産業は依然として低迷、経済部は伝統産業の回復が遅れていると指摘**

【2024-05-23 中央社】

　AIの波がハイエンド・チップやサーバーの需要を押し上げている。経済部国勢調査統計局は本日、4月の工業生産指数と製造業生産指数の概況を発表した。４月の工業生産指数は87.7で前年同月比14.61％増、4月の製造業生産指数は87.3で同14.9％増と、いずれも2ヵ月連続でプラスとなり、1～4月の製造業生産指数累計は前年同月比8.26％増となった。

　情報電子産業では、高速コンピューティング、人工知能アプリケーション、クラウドデータサービスの需要増加の恩恵を受け、12インチウェハー代行生産が引き続き増加し、電子部品産業の年間成長率を23.01％押し上げた。電子部品業界では、集積回路業界が年率30.44％と過去3年間で最高の伸び率を記録し、前年同期に次いで2位となったが、パネルとその部品業界は3年連続の赤字となった。コンピュータ・エレクトロニクスと光学製品産業もAIの波の恩恵を受け、成長率は37.14%と11年ぶりの高水準となった。

　伝統産業については、低迷が続く基礎金属を除き、化学素材・肥料、機械設備、自動車および部品がマイナスからプラスに転じ、機械・設備は年率8.21％増と、機械産業の輸出受注の傾向とは逆に伸びた。

　伝統産業のなかの機械生産の成績について、経済部統計所副所長の黃偉傑氏は、「削減率は縮小しているが、まだプラスに転じていない。半導体、情報通信産業と比較して、伝統産業は回復が遅く、今年の後半は、より大きくプラスに転じることが期待される」と述べた。

**円安続き　機械工業会の会長「ハイエンドの受注は日本にかっさらわれている」**

【2024-05-30 経済日報】

　中華人民共和国国務院関税委員会が本日、2024年6月15日から台湾を原産地とする輸入製品134関税品目について、ECFA税率の適用を停止することを決定したと発表した。

中華経済研究院地域発展研究センターの劉大年主任によると、中国は昨年末、ECFAに基づき、まずアクリルなど12品目の関税を停止したが、本日、石油化学製品、繊維製品、自動車部品、機械工作機など134品目の関税削減を打ち切ると発表した。

　劉大年氏は、政治は政治、経済は経済であることを強調し、国際貿易の規範に立ち返り、台湾がECFAでどのような原則に違反したかを確認し、協議メカニズムで対処すべきであり、中国が一方的に報復措置を発表すべきではないと考えているため、共通認識がないと考えている。しかし、中国側は政治と経済は一体、今台湾と協議することは不可能であり、現時点で双方が収斂を見出すことは非常に困難であると考えている。

　彼は、「すべてのECFA539早期受領リストの輸出額は150億ドル、中国への輸出の10％だ。もし台湾の総輸出額の3～4％を占めるに過ぎないとすれば、貿易額134品目の占める割合はさらに低く、中国への輸出は禁止されていない。売れないわけではないが、関税をゼロにしなければ、経済的なメリットは大きくない。しかし、ECFAは結局のところ、台湾海峡両岸の最も象徴的で示唆的な協定であり、両岸関係が後戻りし続けるのはよくない。」

**中央銀行：円安は半導体に有利、工作機械輸出に影響**

【2024-06-06 経済日報】

日本円為替レートの大幅な下落は、我が国の経済に影響はあるのだろうか。中央銀行の楊金龍総裁は次のように分析する。「日本は台湾にとって輸入大国で、台湾の主要な機器や部品輸入の主な供給源だ。台日貿易の補完関係も比較的高く、今年1月から4月まで台湾半導体装置の輸入は、日本からの調達割合が23.3％、日本円の下落は台湾の輸入コストを削減するのに役立っている。」

　台湾の一部の製品は日本との相似性が高く、日本円の下落は、日本の輸出競争力の一助となっているようだ。しかしデータで見るなら、例えば工作機械の場合、工作機械の輸出価格競争力を左右する重要な要因として、為替レートよりも国際経済情勢が重要であることを示している。

　例えば、2022年と2023年の台湾ドル名目実効為替レート指数（NEER）は平均0.4％下落し、日本円NEERは平均8％下落している。 同期間、両国の工作機械輸出は国際需要の弱体化の影響を受け、台湾の工作機械輸出は平均2.7％減少に対し、日本の工作機械輸出は平均3.9％減少、台湾よりも減少幅が大きい。

**5月の機械設備輸出は微減**

【2024-06-12 経済日報】

　台湾機械協会が昨日、5月の機械設備輸出は前年同月比0.8％減の25億5,200万ドルであったと発表した。注目すべきは、輸出の第１位が電子機器で、5月および前５カ月間の輸出が成長していることだ。協会は、AIビジネスチャンスと電子機器が、台湾機械設備輸出の機関車となり、産業発展の方向性をリードしてくれることを期待している。

　今年1～5月機械輸出のトップ3は、電子機器で全体の16.9％シェア、年率5.1％の増加、検査・測定機器は16.2％シェア、年率1.4％の増加、工作機械は8億8100万米ドル、7.6％シェア、年率16.1％の減少となった。

5ヶ月間の機械輸出国トップ3は、米国（24.2％）、中国（23.8％）、日本（7.4％）。

工作機械方面では、5月の輸出は1億7,900万米ドル、前年同月比21.2％減、年初5ヶ月では前年同月比16.1％減だった。現在円安と大陸の低価格の板挟みで、はっきりとした景気の回復は見られない。台湾工作機械の輸出はまだ深刻な課題に直面している。

莊大立は率直に次のように語った。「主要競争国の通貨安は新台湾ドル安を上回っていて、台湾の機械輸出受注競争は抑制され続けている。国内市場も大幅な円安により、製造業が日本製機械を購入するインセンティブが高まり、台湾メーカーのスペースはさらに縮小している。」

**機械工業会の「日台機械協力会議」6月17日から名古屋で**

【2024-06-14 経済日報】

　台湾機械工業協会は経済部国際貿易局の支援により、6月17日と18日に名古屋と東京を訪れ、2回連続で「台日機械協力セミナー」を開催する。これは、わが国のスマート機械産業が日本との協力を契機に、ハイエンド製造業の国際的なサプライチェーンに参入し、日本の大手商社の緻密な海外マーケティングネットワークに加わる助けとなる。

両セッションには日本企業24社、60名以上、台湾企業16社、30名以上が参加し、今後140組の商談が予想、受注や技術協力などの具体的な成果が期待される。

特筆すべきは、名古屋は、自動車産業や航空宇宙産業で培われた基礎技術、充実したサプライチェーンが完備された高い技術力を有する日本の高精度で保守的な工業都市であり、我々メーカーが学び、育て、協力を求めるに値する地域であることだ。産業界も大いに期待している。

当協会は長年にわたり、日本機械振興協会、日本工作機械輸入協会と協力し、日台機械マッチングのプラットフォームを確立、事前および事後の媒合協力を通じて、日台機械マッチングの拡大を図ってきた。例えば長年にわたり日本での人脈を培ってきた東京サービスセンターが、対象となる日本のビジネスマンに招待状を送り、彼らの希望を確認し、両者の面談を促進するといった具合だ。

**蕭美琴氏「IC産業とAI結合医療システムに期待」台湾新たな光明なるか**

【2024-06-20 経済日報】

副総統蕭美琴氏が20日午前に開催された「2024台湾国際医療保健博覧会」に出席した際、次のように語った。「最近みなの関心を集めているデジタルトランスフォーメーションやAIなどの新技術の導入は、過去に政策が策定されたときには想像もできなかった新しい変化だ。」産業発展の過程において、彼女は政府が管理者になると同時に、産業の発展を支援してマッチメイキングを行い、より多くの機会を提供する上で重要な役割を果たすことを期待している。

蕭美琴氏は次のようにも語る。「重労働の医療従事者が提供する専門知識やケアに加え、医療業界は新しい技術や機器によって補完される必要がある。高齢化、少子化、全年齢介護のプレッシャー、人員不足など、さまざまな課題に直面する中で、医療全体の持続可能な発展を支えるテクノロジーを導入し、世界の最先端を走り続けることがますます重要になっている。」

彼女は、かつての国際的な友人たちも台湾のICT産業に注目していたが、それは "国家の守護神 "だという。しかし彼女は、ヘルスケアも我が国の"守護神 "となり、重要かつ領域を介した新産業クラスターを形成できると考えている。台湾のハイレベルな医療サービスシステムは、IC産業、工作機械及びさまざまな臨床試験で導入された先進的なAI技術を組み合わせることで、この産業を台湾の新たな目玉とする。彼女はまた、すべての規制や政策立案者が、関連する展示会を通じて、台湾の医療業界のニーズや、時代に合わせた政策の必要性を知ることができると期待している。

**楊志清氏が経済部工業発展局長に就任、「三本の矢」政策を推進**

【2024-06-28 経済日報】

新たに就任した経済部の工業発展局長楊志清氏が28日就任後、政策の三本の矢を推し進めると述べた。まず、デジタル化と低炭素化の二軸転換を引き続き推進する。 検疫後、条例が施行されて久しいが、産業変革の基本的な側面はデジタル化であり、将来的に各産業へのAI応用導入の基礎を築くことができ、今後もAI産業の普及と応用を推進していく。

二つ目は、産業界や公共団体と引き続き意思疎通を図り、連携していくことだ。 産業界から反映された需要により、すでに「生産イノベーション条例」第10条第1項を拡張、当初の5Gや情報セキュリティプロジェクトに加え、AIやネットゼロ・低炭素設備も取り入れる予定。また、財政部とも意思疎通を図り、経済成長を促す効果を発揮しつつ、雇用の安定を図りたい旨を説明し、次回の立法院で精査に回す見通しだ。

三つ目は、サプライチェーンの連携強化。 楊氏は、「国際的なサプライチェーンと国内の中小企業がつながり、リンクすることで、台湾がもつ多くの中核企業、台湾のICT、自転車、自動車部品産業、石油化学、工作機械や機械産業、半導体産業と協力することができるなど、地域を越えてリンクすることができ、異業種間の統合を推進していく」と述べた。